にはや人情を味はうとする、それが抑も間違の初まりだ、僕は此點から云つても、子供には子供の文學、即ち加嘶を勸め度いと思ふ、ホイこれは飛んだ我田引水、叱られない中にこれで失敬。

先頃の新聞に左の記事があつた。物見高いのも斯ふなるとちと滑稽である。

◉他人の癪が災難の種　茨城縣田中子之吉といふは一昨日午後四時頃妻お辰を連れ芝公園に赴き增上寺前に差懸るとお辰は急に癪を起したるより種々介抱の上來合せたる巡査の手にて醫師の治療を受けたるが御苦勞にも人の疝氣を頭痛に病んで癪だ〳〵と見物して居たる同區西應寺町白米商西山吉太郎と云ふは何者にか九圓九十三錢入の鞄を掏取られ泡喰つて居る處へ黑山の人たかり何事ならんと一人の男增上寺前にて電車から飛下り人事不省となり漸く蘇生し苦い顏して立去りたるが廣い東京とは云へ醉狂な人達も有つたもの哉

子供と浮和雷動

芙蓉生

子供と云ふものは氣を付けて見れば見る程面白いもの滑稽なものである。此間も近所の長屋に居る氷屋の台所で三つ許りの女の子が始めは盥の中の水だらけな雜巾を振舞はしておとなしく遊んで居たが頓ての事に傍の摺鉢の中に入れては出し出しては入れて遊んで居た。此次は何をするかと見て居ると今度は雜巾の代りに自身が摺り鉢の中へと入へり込んだ。そしていとぞこの狹い爲めに鉢の搖くのが面白くてがた〳〵やらかして居たが頓がて殊に鉢は一搖ぎすると共に流しの勾配を滑つて向ふに走り子供はづでんどうと仰向け樣にしりもちついて水だらけのちやん〳〵こをながめながらワアーと云ふわめき之に次いで母親が叱咤の聲隣

り近處の同じ井戸端議員連の出張となりて稍二三分間は時ならぬ活劇を演じ出した。始めから遠くで見て居た我輩は如何にも滑稽なので獨り笑つぼに入つて居た。誠に子供程面白く愉快に人を笑はせるものはない。

が併し之が少し大きくなり七つ八つから十、十一、となると傍で見て居る大人の顏色に因つて少しでも白い齒を見せると圖に乘つて惡ふざけをして仕方がないものである。然でなくても友達や何かの樣子で時々存外に一時的にお調子ものとなり、輕はづみな事を爲ることは子供には多いことである。此樣な時には平素してはならぬと堅く禁じてあつた事などもふわ〳〵と然したる惡事でないかの樣に思ふて大それた事を仕出かす事も好くあることである子供を敎育する人は時々意外な落胆や失望を來すことのあるのも其原因を尋ねて見れば子供の此浮薄なる雷同性に基いて居て別段深き惡意を以つて居ないことが多いものである。心理學者が子供は社會心に動かされ易いとか子供の思想は淺薄輕浮なものであるとか云ふのも之を見ると思ひ當ることである。が之が大人になる迄に如何して確固な人格を樹立するかと云ふに是は一に敎育の力と云はなければならぬ。故に敎育の足らぬ大人は矢張り子供の樣で何時迄も輕浮な分子を以つて居ることが能くあるものである。昨年の交番燒打事件に面白半分で騷ぎ回はつた連中にも此類のものが頗る多い。近頃の新聞に左の樣な記事があつた。

●燒打事件公判廷雜觀

▲宣告前の被告　被告は皆無罪と云ふことに獨

り極めにして早速一杯祝盃を擧げて何處かへ行かうなど孰れも莞爾さゞめき合ひしが裁判長が愈よ中村善太郎有期徒刑十二年と讀み始めた刹那被告の顏色は變りたり▲蒼くなり又泣き出す鶴の一聲然も案外なる申渡の始まりてより一同水を打ちし如く中には縮み上つたものもあり禁錮何年と自分のを聞いて手巾にそつと涙を拭きしもあり▲質問やら答辯やら　今村裁判長は言渡を了りて一同を見渡し「分らぬ者は幾干でも遠慮なく問へば答へる」と云ひしかば大勢はがや〳〵し「私のは何です」「私は何年です」「私には執行猶豫がありますか」など二三十人、中にも米村作之助は聞き直して「汝のは放火犯で本來なら死刑であるのだが酌量して重懲役九年だ」と云はれ眼をきよろ〳〵し泣き出しさうにして席に就き、次に重禁錮九年の石井淺次郎が執行猶豫の有無を尋ねしを裁判長が人違へして「汝は派出所の便所を押倒して毀したので重禁錮一年だ」と云はれ「いゝへ私は毀したのではありません」と云ひ裁判長は尙悟らず「今辯明しても不可ぬ」と云ひしは滿廷を笑せたり云々

我輩は今此處に罰の當否を論ずる必要はないが併し多くの被告が何れも己れの罰の意外に重かりしに一同喫驚して始めて己れの罪の決して輕からざりしに氣付きたるが如きは如何にも彼等被告の無定見、沒常識には驚かざるを得ずだ、然も其輕擧が何れも他の尻馬に浮和雷動して前后の考もなく些少の分別もなかりし結果だと聞くに及びては益々以て呆きるゝ外はない。是等の事を考へて見ても子供の浮和雷動性を取り除くことが敎育上に於

ける一つの任務だと云ふことが出來る勿論座興とか、遊戯とか云ふものが交際的に社會的に多くの人の意見に從ひ衆と共に悦び樂しむと云ふことも必要ではあるが、併し是は事の種類も違ひ考の筋も違ふ。假令心理上然したる違ひはないにしても一方は自他の興味を兼ね備へ一方は他を損害し世を騒がさんとす。善惡の存する所炳焉として三尺の童子にも尚且分ることである。然も此危險なる雷動心が子供に殊に多く現はれるのであるから子供を取り扱ふものは一層の注意を此方面に要すと云はねばならぬ。

◉四つ目の魚　此種中央アメリカ洲カテマラ國に發見せられたり一對の目は水面より上のものを見る事を司り他の一對は水面下の物を見る樣になり居りて同時に兩方を（空中と水中と）見る事を得る仕掛なりといふ

新夫婦の理科問答（中）

本郷生

いつ頃の事であつたかは確かに覺えぬが、何んでも新綠滴らんずる五月頃でもあつたろう、正木は夕の食卓に向ひ心地良げに且つ食ひ且つ話しする内、ふと氣付いたやうな調子で、

「綾さん、今少し脂肪質のものを御馳走して呉れんかね、綾さんの献立は三大滋養素の二つ丈けは十分であるが、どーも一つ脂肪に於て缺くるところがあるやうだ」

「左樣ですか、それでは明晩御馳走致します、でも貴郎隨分脂濃いものが御好きですね」

「婦人の目から見ればそーかも知れん、之に就て面白い話しがある。吾輩は嘗て吾が御茶の水の母校に炊事掛であつた時、仝じく炊事掛りの一員が